

中小企業のための

法務講座

香港の会社に投資するときの注意点

香港でビジネスを行いたい日本の投資家にとって最も手取り早い方法は、すでに香港にある会社を買収することです。もちろん購入前に弁護士や会計士によるデューデリジェンスを入れることで、その重要性は言うまでもありません。多くの投資家の方々はしっかりと行っていることでしょう。

最近香港市場での上場を夢見て有望な会社を選び、過半数以上の株券を買い上げ、買収に成功したにもかかわらず、悲惨な結果になってしまった投資家から相談を受けました。しかも残念なことに、相談をいたいたいた時にはすでに手の施しようのないところまで来てしまつていきました。「もう少し早くご相談いただいていたなら

香港でビジネスを行いたい日本の投資家にとって最も手取り早い方法は、すでに香港にある会社を買収することです。もちろん購入前に弁護士や会計士によるデューデリジェンスを入れることで、その重要性は言うまでもありません。多くの投資家の方々はしっかりと行っていることでしょう。

香港でビジネスを行いたい日本の投資家にとって最も手取り早い方法は、すでに香港にある会社を買収することです。もちろん購入前に弁護士や会計士によるデューデリ

(1) デューデリジエンスだけでは足りない?

多くの投資家が重要な視しているデューデリジエンスですが、デューデリ

ジエンスの結果はあくまでも「今まで」の状態であつて、その状態が買取後にもそのまま継続す

るのを保証してくれるものではありません。買取後には買収前とはまた違つた点に気をつけなければなりません。

(2) 従来のスタッフを味方にする

海外投資家として、自



香港進出の手取り早い方法は現地企業を買収すること

自分が海外の会社に投資するときには、自己保護の意識を持つことが重要です。従来のスタッフと新しいオーナーとの間の軋轢が会社を破たんに導くことは決してめずらしいことではありません。スタッフは自分の会社にある程度の愛着を持っていますから、自分の会社が買収されることに対する心理的な抵抗を感じます。環境の大きな変化は人に不安感を与えますから、合にも逐一情報が届くシ

(3) 現地のスタッフに任せすぎない

理想的なのは、日本から信頼できる人物を香港に派遣することです。その場に影響力を持ち続けるためにはさらなる工夫が必要となります。例えば以下のようなものが考えられます。

① 情報の共有化
経営の状況、会計、取引などについて、必ず毎週あるいは毎月、定期的な報告を義務付け、また、日常のビジネスメールも必ずCCにより、自分のところにも情報が入るようになります。

② 株主総会と取締役会への参加、議事録の作成
香港では、すべての会社は株主総会を開くことが法律により義務付けられています。また、会社の重要な決定のすべては役員会で行われます。できれば会社の所有者として株主総会にはもちろんのこと、役員会にも参加することが理想的です。

もし、日常的に行われる役員会に参加することが地スタッフがその小切手を悪用したとしても、そのような小切手を渡したオーナーの責任が免れず、香港のスタッフに経営を任せるとか、オーナーとして会社経営への影響力を持ち続けるためにはさなる工夫が必要となります。例えば以下のようなものが考えられます。

③ 金銭的実権を握る
会社の判断、印章、銀行の手帳など重要なものはできるだけ自分で管理しましょう。しかし、日常の業務に必要なものは現地のスタッフに預けざるを得ない場合、重要なものは管理者を定め責任の所在を明らかにします。

筆者紹介
ANDY CHENG
弁護士 アンディ・チエン法律事務所代表
米系法律事務所から独立し開業。企業向けの法律相談・契約書作成得意としている。香港大学法律学科卒業、慶應義塾大学へ留学後、在香港日本国総領事館勤務の経験もありジエントロ相談員も務めている。日本語堪能
www.andysolicitor.com
info@andysolicitor.com

